

乾燥（夏期）対策のチェックリスト

露地野菜

【事前対策】

内容	チェック欄	備考
夏期に乾燥害を受けやすいほ場では野菜類の作付けをなるべく行わない。代わりに緑肥作物を作付け、土壌の異常乾燥、表土の飛散を防止する。やむを得ず野菜類を作付ける場合は、比較的乾燥害を受けにくい作物を栽培する。また、白、シルバー等マルチによる栽培について検討する。		
ほ場の保水性、排水性を高めるため、堆きゅう肥の施用や緑肥作物の作付け・鋤込み等により、優良な有機物をほ場に供給し、土作りに努める。		
作物の根を深層まで深く広く張らせるため、深耕を行う等して、耕盤を壊すことにより、作土層を深くしておく。		
干風害を防ぐため、作物の作付計画に応じて予め、ほ場の周囲や風上側にソルゴー等障壁作物を作付けておく。		
ほ場のかん水に使用できる畑灌、井戸、用水等について予め検討しておき、季節予報等により高温乾燥が予想される場合、揚水ポンプ、水タンク、動力噴霧器等の準備、かん水チューブ、点滴かん水チューブ等を設置しておく。		
作物の生育状況、週間天気予報等から、優先順位、方法・量を判断してかん水を行い、適当な生育と品質確保を図る。		

※ 作業中及び見回り時に事故に遭わないよう十分に注意し、安全を確認の上、ほ場や施設の管理を行ってください。

乾燥（夏期）対策のチェックリスト

【事後対策】

内容	チェック欄	備考
生育初期で被害が甚だしく回復の見込みがない場合は、植え替え、まき直しを行う。		作物被害が激しい場合。
作物の被害状況を確認して、今後の栽培計画を検討する。夏期の乾燥は広範な地域に影響を及ぼし、供給量の減少による市場価格の上昇も予想されるので、できるだけ収穫・出荷に努めることが得策な場合もある。		回復を図る場合。
減収が予想される場合でも、生育がある程度進んでいて収穫・販売が可能と判断されれば、そのまま栽培を継続する。		回復を図る場合。
乾燥が一息ついたら、枯死した茎葉を切除し、殺菌剤による防除を行い、病原菌の2次感染や腐敗防止に努める。		回復を図る場合。
土壌の乾燥や蒸散過多により根や葉が傷んでいる場合は、薄い液肥を葉面散布し生育回復を図る。作目によっては、側枝（わき芽）を利用する。		回復を図る場合。

※ 作業中及び見回り時に事故に遭わないよう十分に注意し、安全を確認の上、ほ場や施設の管理を行ってください。